

日本キリスト教保育所同盟 (題字 前理事長・木村 量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 同胞保育園内 〒611-0033 京都府宇治市大久保町旦椋72-2
発行責任者 理事長 新井 純

「隅の親石」

日本キリスト教保育所同盟

理事長 新井 純

このたび日本キリスト教保育所同盟（以下キ保同）は、2015年5月に開催された総会において採択された「ミッションステートメント（使命の宣言）」を掲げました。キ保同の加盟園は、各園の個性を尊重し、かつ活かしながら、「いのち・人権・平和」を実現する保育を目指すことを宣言します。そして、かけがえのないいのち、守られるべき人権、創り上げる平和の尊さを常に想いつつ、神さまからあずけられた大切な子どもたちが、生き生きと輝いて成長できる園創りを目指します。

ミッションステートメントについての詳細は、別刷りの本文や「小さな解説書」をお読みいただきたいと思いますが、これは決して保育のマニュアル化ではなく、むしろ加盟園がすでに実践されているそれぞれのキリスト教保育をさらに豊かに展開するための意味と目的を増し加え、新しいアイデアを想起させ、それを保育の中で実現させるための知恵と力と励ましが神様から与えられていることを、各々のうちに確認するためのものであります。

キリスト教保育とひとこと言っても、その理解は千差万別です。そのような中、私は主イエス・キリストの生き方にならって生きること、そしてその生き方が保育の中に活かされることこそが大切だと思っています。そのため、園ごとに独創的な保育が展開されるわけですが、その独創的な保育を互いに分かち合えれば、保育に関する多くのヒントを得ることになり、さらに豊かな保育へとステップアップしていくことができるようになるはずです。そのためにミッションステートメントが、私たちの保育がどこに立っているのかの共通認識を確認するために生かされていくものと確信します。

現在、キ保同は研修やこの機関紙「山びこ」などで学びや情報交換、そして交流を主な働きとしていますが、今後は加盟園並びに保育者たちが、キリストによって結び合わされ、ミッションステートメントを通して互いに連なっているという自覚を新たに、切磋琢磨しつつ、祈りを合わせてさらに成長していくキ保同でありたいと願います。

日本キリスト教保育所同盟

第57回 夏季保育大学 広島大会 報告

広島大会実行委員長 眞田 右文

「いのち・人権・平和を被爆70年のヒロシマで考える」を主題として、8月19日（水）～21日（金）までリーガロイヤルホテル広島を会場に、被爆の実態と軍都であった広島を見ていただきました。

例年の発題講演というスタイルではなく、被爆証言や碑めぐりなどを通して考えていければと思い、実行委員会では、取り組んできました。

中国ブロックは、各園が地域的に離れ、委員会も再々行うことができなく、メール・FAXなどで、連絡を取りながら準備をしてきました。途中から加盟園だけではなく、教会の牧師を含んだ実行委員会になり、直前まで全国の皆さんに楽しんで考えていただけるように頭をひねっていました。

135名という多くの方にお越しいただきました。部屋割りやフィールドワークなどでご迷惑もたくさんおかけしましたが、「いのち・人権・平和」について被爆地広島で各自が感じ、考えていただけたのではないかと思います。

開会礼拝 日本キリスト教保育所同盟 新井 純理事長による開会礼拝を持ってスタートしました。集められました献金88,371円は、感謝のうちに本部へ送金させていただきました。



被爆証言 日本キリスト教団広島東部教会牧師であり、被爆者の月下美孝牧師より、腹話術で「しんちゃん」も一緒に被爆の実態について語っていただきました。



平和記念公園碑めぐり 碑めぐりでは、ガイドの方に公園内外の碑についてお話を聞きました。



親睦会

新井理事長の挨拶と石井先生のお祈りそして、小南前理事長の乾杯で始まりました。地元のエリザベト音楽大学を卒業したサクソ四重奏のジャズに酔いしれました。席をくじ引きで決め、日頃話ができない人とも交流ができ、各地区の報告もあり大いに盛り上がりました。



業したサクソ四重奏のジャズに酔いしれました。席をくじ引きで決め、日頃話ができない人とも交流ができ、各地区の報告もあり大いに盛り上がりました。



フィールドワーク 4グループに分かれてのフィールドワークでした。

第1グループ 呉・江田島 大和ミュージアム・海上自衛隊幹部候補生学校・第一術科学校（旧海軍兵学校）

第2グループ 平和記念公園・巖島神社と宮島散策

第3グループ 広島市内被爆地見学とヴォーリズ建築

第4グループ 瀬戸内しまなみと尾道散策



コンサート いのち・人権・平和コンサート

音楽と映像と語りによる JERRYBEANS&YOKKOによるコンサートでした。心に伝わり会場外ではCDの販売も行われました。



平和教育の取り組み

広島YMCA保育園による平和教育実践報告をしていただきました。日頃から平和記念公園への散策や被爆者との交流を通して平和を考える活動実践を報告をしていただきました。

朝の礼拝

3日目の朝の礼拝では、沖縄からの報告がなされました。普天間基地移設について、沖縄では連日マスコミなどで報道されているが、本土ではあまり取り上げられていないことなど、戦争への足音が昔の広島と似ていることが危惧されることなど報告がありました。



キーワード： 人権

園 名： 大阪聖和保育園

地区名： 大阪地区

氏 名： 木澤千弦（保育士）

エピソード：

「ほっとしたね」

（背景）

大阪聖和保育園では、毎週月曜日に2・3・4・5歳児の礼拝をしている。お話は園長や主任保育士が担当しているが、1月に1度は大阪聖和教会の牧師が来て下さる。この日は、1月17日の直後で、阪神大震災を体験した牧師がお話に来て下さっていた。

（エピソード）

いつものように賛美歌を歌い、牧師の話が始まった。先生は、「当時、犬を飼っていて、その犬はとても人見知りな犬で、家族以外の人にはなつかず、他の人が来ると吠えて隠れてしまうほどだった。震災の朝、家は倒壊。自分は避難できたが、犬と一緒に避難できず、行方がわからなかった。」と話し始めた。子どもたちは、みんな静かにお話しに聞き入っていた。その中で一人、5歳児のAくんが「その犬、死んだん!？」「死んだん??」と話を遮るように何度も聞き始めた。私はまだ話が続いているのに、ちゃちゃをいれるように発言するAくんに静かにして欲しかった。私も犬の生死は気になったが、それは、最後まで聞けばわかるのだから、なぜ、最後までちゃんと聞かないのかと腹立ちの気持ちが湧いた。Aくんに静かにするように言葉がけようかと思ったが、いつもは話を最後まで聞けるAくんだったので、なぜ、そんなに聞くのかも気になり、すぐには言葉かけずに見ていた。また、注意をすることで、他の子どもたちの集中が切れてしまったらいやだという思いも頭をよぎった。先生は、Aくんの発言に対応せず、「犬は、倒壊した家に取り残されていて、クンクンと鳴き必死に助けを求めていたところを、通りかかった人に助けられた。1週間後、知らない人に連れられて、避難所に犬がきたときは、生きていた喜びと、知らない人に連れられていることにとっても驚いた。人見知りの犬は生きることをあきらめなかった。あきらめない気持ちが大事だと思った。神様はいつもそばにいてくださる」と話された。すると、Bくんが、「見つけてくれた人に“ありがとう”やね」と感想をもらした。私も“そうだな。生きていて良かったな”と思った。見るとその横で、Aくんがホッとしたような顔で座っていた。その顔を見たたん、 “Aくんが、話の途中で「死んだん!？」と何度も聞いたのは、犬の生死が気になりすぎて、不安だったのだろう”と気がついた。”不安で仕方ないので、早く結論を聞きたかったのだ”と想像できた。単なるちゃちゃを入れているだけだと思ってしまった自分が恥ずかしかった。「この犬にとって、隣人ってだれだったのでしょうかね」と牧師の話は締めくくられた。

（考察）

“現象を見ないで気持ちを見る”ということが大切だとわかっていたのに、この時は、“話を遮るAくん”としか見ていなかった。Aくんがどんな気持ちから、その発言をしたのか気持ちの想像ができなくて、Aくんの気持ちには全く共感していなかった。それどころか、礼拝中でみんな静かに聞いているのに、その静けさを混ぜ返すAくんという「マイナスイメージ」をつけて否定していた自分がいた。また、Aくんに最終的

に言葉をかけずにいたのは、私と話し手との関係も影響していると感じた。Aくんの話しかけに対応しなかったのは話し手の意図があると感じ、Aくんのことを話し手に預けることにしたのだ。話し手を信頼すること、一人一人の子ども理解を深めるということが自分の課題であると感じた。

聖書： 「また、ほかの種は良い土地に落ち、芽が出て、百倍の実を結んだ。」イエスはこのように話して、
「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声で言われた。 (ルカによる福音書8：8)

<エピソード公募のお知らせ>

※ 「日本キリスト教保育所同盟 ミッションステートメント (使命の宣言)」の「小さな解説書」に「(5) 今後の進め方」として、エピソードを順次掲載することを提案しています。エピソードに優劣はありません。職員自身が子どもや保護者、職員同士のとのやりとりの中で起こった出来事を記述する事で、感じたり、考えたりしたことを考察するという保育の省察方法です。書かれたエピソードに「いのち・人権・平和」のいずれかの「キーワード」と「聖書の箇所」を選択して書式にまとめていただけると幸いです。加盟園の皆様からのエピソードをお待ちしています。

(書式)

①キーワード (「いのち」「人権」「平和」から選択する)		
②園名	地区名	氏名
③エピソード		
「題名」○○○○		
「背景」○○○○・・・・		
「エピソード」○○○○・・・・		
「考察」○○○○・・・・		
④聖書の箇所 (合致する聖書の箇所を選択する)		

(原稿送付先)

- 事務局／(京都地区 同胞保育園 堀井 忠) (TEL 0774-44-3632) (FAX 0774-44-8070)
(✉ info@douhou-h.ed.jp)
- 「山びこ」編集局／(京都地区 ぶどうの木保育園 木村 耕) (TEL 075-982-9013)
(FAX 075-874-2500) (✉ budounokihoikuen@diamond.broba.cc)

「夏の北海道保養プログラム、楽しみました！」

会津放射能情報センター 片岡輝美

原発廃止を求めて20年近く活動してきた「原子力行政を問い直す宗教者の会」は、今夏5回目の「夏休み北海道寺子屋合宿」を実施。会津放射能情報センターは一昨年からは北海道保養プログラムを共催してきました。今年の参加者は幼児4名、小学生4名、大学生スタッフ2名、母親3名、引率者2名の15名。大学生スタッフ・鈴木詩穂さんの感想をお届けします。彼女はSEALDs（自由と民主主義のための緊急活動）関西のメンバーとしても活動中です。

2015年8月17日から21日、私たちは北海道保養に出かけた。若松栄町教会を出発し目指すのは、今年もお世話になる倶知安の東林寺さんだ。とても楽しみにしていた。子どもたちに会うのも、東林寺さんへと向かうのも。幼稚園の園庭、ツリーハウス、バギーにカヌー。遊ぶ場所たっぷりのカッケーお寺なのだ。



北海道は何と言っても、景色が格別だ。どこまでも続く畑や牧場。青く晴れ渡る空の下、

強くそびえ立つ羊蹄山。バスを降りて辺りを眺めると心が解放されるのが分かる。自然と深く深く息を吐き出すことができ、今度は胸いっぱい綺麗でおいしい空気を吸い込んだ。久々にしっかり呼吸した気がして、とても気持ちがよかった。

「食べ物は食べきれないほどいらない。必要なだけあれば、それで十分。」基本私はそう考えている。けれど、終わりが見えないほど広大な畑を目の前にして「これ全部芋か…」とか「どこまでも、これトウキビなんだよな」って思うとき、15人分の食事を大きなお鍋で煮たり、山盛りのお野菜や果物を切るときには、豊かだなあと感じる。安全な食べ物がたっぷりある環



境はとても豊かだし、どこか余裕が生まれる。もちろん余すことなく食べきれぬ量があればよくて、きちんと必要なものを分け合える関係・環境を構築していきたい。物質的な豊かさを求める事による弊害も、きっとあるんだけど、間違いなく言える事。それは安全な食べ物を確保することが「人間が人間らしく生きるための心の余裕」を生み出すための最低ラインであり、

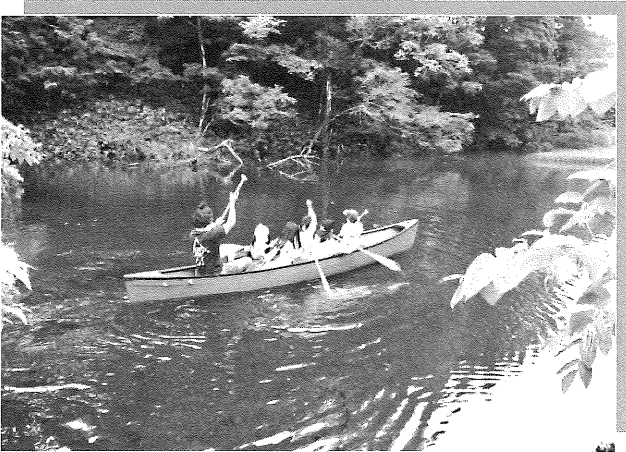
決して脅かされてはならないということ。

最近、私の住む西宮市内の多くのスーパーでは陳列棚に福島産のキュウリが並んでいる。正直私はそれを見て引くし、同時にコレが地元の農産物に対して抱く感情なのかと情けなくなる。「安全な食べ物の確保」、私たち大人が、本当は全力でしなければならないことだ。

よく笑い、よく食べ、本当によく泣く子どもたち。小さな体から放出されるものがエネルギーで生きてる!!!って、感じだ。私が普段過ごしている関西では子どもといることが極端に少ないせい、ダイレクトにそれを受け震えたと、「子どもが愛しい存在である」という分かりきったことに、再度納得させられたような気がした。

今回の旅で強く思ったのは、「可愛い」だけじゃ子どもは守れないということだ。中通りや浜通りから会津に避難してきたお母さんたち。そして今回の保養に子どもを送り出したお母さんたち。知っている情報と鋭く張ったアンテナを駆使して下した決断だ。自分の頭を磨き、感性を磨き続ける責任がやっぱり大人にはある。そして、大事なのは、今は1歳から10歳の共に過ごした彼らも、すぐに成長してこの社会を形作る主体となっていくということだ。教育が担うものの重さを強く感じる。

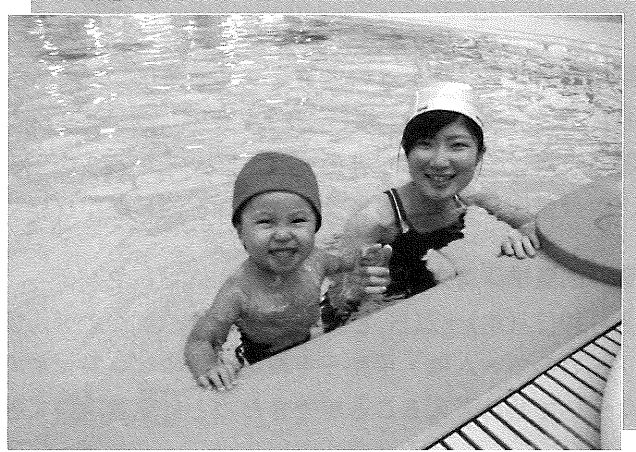
2011年3月11日。あの日、それまでの学びや体験がなかったならば、私は「怖い」とも「逃げたい」とも思わなかっただろう。あれは学校以外の環境で、たくさんの大人たちが教えてくれたこと。



私はもっと学校教育の中で、子どもたちに生き延びるための知識を教えたい。自ら思考し未来を選び取る能力を身につけてほしい。そんなことを考えて今、大学の教育学部に入り社会科教員を目指している。そして、もちろん、子どもを教育するのは教師だけじゃない。親として、祖父母として、兄弟姉妹として、近所のおじさんや職場のおばさんとして、友人として…民主主義のこの国に先に生まれ出たすべての者は、

後からくる子どもたちにこの国での生き方を教える義務と責任を負っている。私は1人の国民としてこの役割を果たしたい。

自分がどのようにあるべきで、どんな国で生きるためにどんな行動を起こすのか、思考し続けたい。そしてこれから先、子どもたちに平和な社会を残していけるようにと願う私自身のために、動き続けたい。とにかく、怒涛の5日間。そして最高に幸せな5日間だった。このプログラムに携わってくださったすべての方々に、心から感謝します。また会いましょう。



事務局だより

☆ 第19回 Bangladesh の保育を支える会について

6月7日(日)～6月15日(月)「第19回 Bangladesh の保育を支える会」がもたれました。プレスクール小屋の視察、子どもたちとの交流、プレスクールの先生方とのワークショップ、ショミティの母親たちとの交流、少数民族ガロ族との異文化交流など内容豊かな旅でした。参加者8名。

☆ 第57回夏季保育大学について

8月19日(水)～21日(金)、リーガロイヤルホテル広島を会場に第57回夏季保育大学がもたれました。主題は「～いのち・人権・平和～を被爆70年のヒロシマで考える」でした。戦後70年の節目の年に広島において平和について共に考えることができたことは意義深いことでした。参加者135名。

☆ 北関東・東北豪雨災害の支援について

50年に一度と言われる豪雨に苛まれ、被害を受けられた方々に心からのお見舞いを申し上げます。キ保同としては加盟園だけにとどまらず、子どもに関わる諸団体に対して、日頃みなさんからの献金、「災害基金」から支援金をお送りすることを検討しています。

☆ 安全保障関連法案について

安全保障関連法案について本当にこれでよかったのかと考えさせられます。集団的自衛という名の下に、敗戦後70年にもわたってこれまで日本が守ってきた事は何だったのか。そのことで私たちの目の前にいる子どもたちに平和な未来を本当につないでいけることになるのか。本当は違う道があるのではないかと思わざるを得ません。

先に行われた参議院での公聴会(9月15日)において奥田愛基さん(SEALDS)が議員に訴えた言葉が印象的です。「自分の信じる正しさに向かい、勇気を出して、孤独に試行し、判断し、行動して下さい。」(朝日新聞)。

私たちも「いのち・人権・平和」に照らし合わせて、あきらめずに考え続けていきましょう。

☆ 「ミッションステートメント」について

「日本キリスト教保育所同盟 ミッションステートメント(使命の宣言)」を皆さんにお送りできることを嬉しく思います。自由にご活用ください。なお、キ保同保育研究会委員の森本宮仁子先生に各地区において研修会を開いていただいています。まだ開催されていない地区は、事務局までご相談ください。園における研修会にも対応していただいています。

☆ 第三者評価について

本年度受診ご希望の方は事務局までお知らせください。随時受け付けています。また、受診をお悩みの方は、資料だけでもご請求ください。申請書ほか「保育に関する自己評価票」など一式をお送りいたします。

☆ 今後の主な予定

- ・園長研修会 2015年10月26日～27日 於. 鬼怒川温泉 夢の季
- ・中堅保育士研修会 2015年11月11日～13日 於. 横浜中央YMCA
- ・スキルアップ研修会 2016年1月19日～20日 於. コミュニティ嵯峨野
- ・理事会 2015年2月15日～16日 於. 未定

